

ハードル走は続く

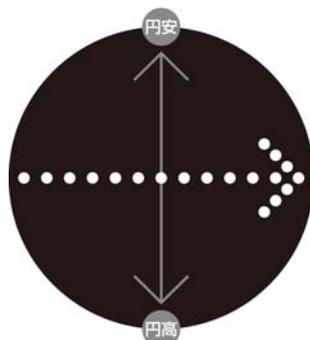
～マーケット・カルテ 3月号



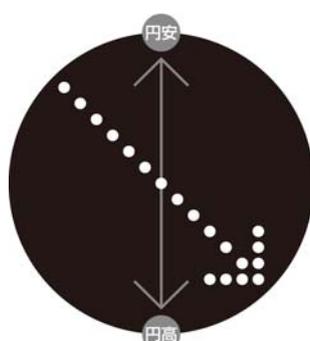
Photo: Pictogram©

シニアエコノミスト 上野 剛志
tueno@nli-research.co.jp

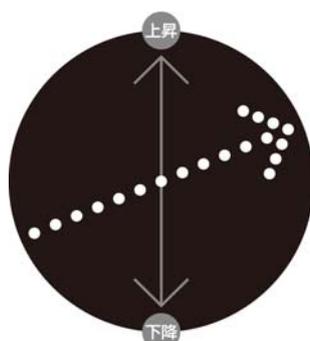
(執筆時点：2013/2/18)



円・ドル半年後の見通し



円・ユーロ半年後の見通し



長期金利半年後の見通し

2月前半の市場では、円安ドル高の動きが一服した。円安進行は3か月が経過したうえ、G7・G20 という国際会議を控えて様子見スタンスが強まった。これら国際会議では名指しでの円安批判は回避されたものの、今後の対応については釘を刺された感もある。閣僚による具体的為替水準への言及や外債購入のハードルは上がったであろう。

今後は米国でリスクイベント（3月月初の強制歳出削減発動、同月末の暫定予算失効、5月半ばの債務上限問題期限）が相次ぐこともあり、これまでのような円安ドル高進行は見込みがたい。一方で、わが国では日銀総裁人事が本格化するうえ、新総裁就任後の4月決定会合にて追加緩和に踏み切る可能性が高いため、当面は円の上値も重いだろう。5月以降は材料出尽くし感から一旦円高に振れると見るが、上記イベントを通過した米国経済への期待から徐々にドル高の色彩が強まり、半年後のドル円レートは現状比でほぼ横ばいに戻ると予想する。

ユーロは2月に入って、ドラギ総裁によるユーロ高へのけん制発言やファンダメンタルズの厳しさから調整が入った。ただし、水準としてはまだ過熱感があるうえ、イタリア・スペイン政局の混乱、ギリシャの国債大量償還への懸念も燻っているため、今後も弱含むと見る。

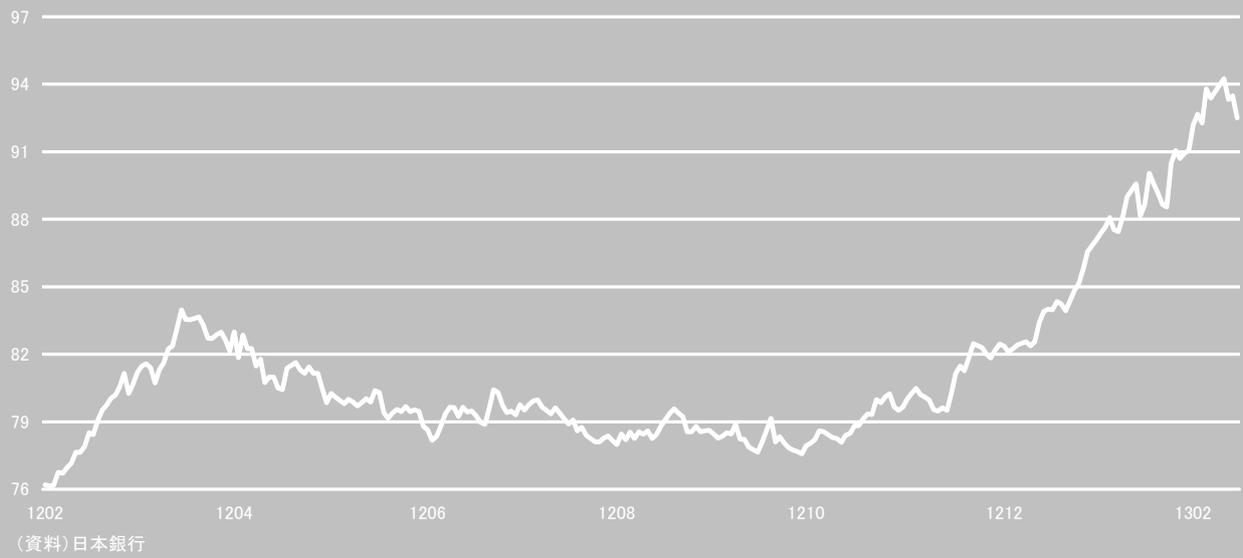
長期金利については、日銀新総裁誕生と追加緩和への期待から当面低迷するが、時間軸を半年まで伸ばした場合は、米国経済の持ち直しに伴う米金利上昇につれて緩やかに上昇するとの見方に変更はない。



うえのつよし |

1998年日本生命保険相互会社入社、2001年同融資部門財務審査部配属、2007年日本経済研究センターへ派遣、2008年米経済調査機関 The Conference Board へ派遣、2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

円・ドル為替レートの推移（直近1年）



円・ユーロ為替レートの推移（直近1年）



長期金利（10年国債利回り）の推移（直近1年）

